

台湾での留学を終えて

台湾の淡水にある淡江大学での留学が終わりました。私は、本来一年間留学に行く予定でした。しかし、新型コロナウイルスにより、予定よりも短くなってしまい、二学期目は一か月しか学ぶことができなくなりました。留学に来てから台湾人の温かさや、台湾政府や淡江大学の新型コロナウイルスへの対応の早さなど台湾のいいところをたくさん発見でき、台湾という場所をとっても好きになったため帰国することが嫌になりました。その為、今は不完全燃焼なところがありますが、留学を経験できた喜びや達成感のほうが大きいです。

私は、入学する前から絶対に留学するという思いがありました。そのため、一年生の最初の留学説明会に参加し国際教育センターに通っていました。最初は、ハンガリーに行こうと思っていたのですが、今のままの英語力で TOEIC700 点を取るのに時間がかかってしまい就活に影響が出てしまうことと、大学一年の夏休みに日中文化交流協会の一員として中国に行きました。そこでちょっと中国語や中国の文化を学びたいという思いが強くなったことで台湾へ留学に行くことを決めました。私は、たまたま中国語を履修していて、国際教育センターの方たちに台湾に興味があることを伝えていたため、中国に行けたし台湾にも行くことができました。そのため、少しでも違う国に興味があると思った方は、その国の授業を取ることをお勧めします。学んでから違うと思えばやめることはすぐにできます。しかし、大学の授業では、学びたいと思っても履修期間が限られています。もし、留学したいと思っても、時間が足りなくて留学の夢を諦めなければならなくなってしまいます。そのため、留学に行きたい、違う国の言葉や文化を学びたいと思った方はすぐに行動に移してください。



留学に行くときに私は、中国語が全くと言っていいほど話せない状態で留学に行きました。そのため留学に来て初めの2,3 か月は、店員さんの言っていることが全くわからず買い物もままならなく、まともにご飯を食べることができませんでした。しかし、勉強して繰り返し聞いていたり、友達に教えてもらったりしたことで言っていることがわかってきました。また、中国語は声調を間違えると別の意味の言葉になってしまい意味が通じなくなってしまうため、初めのうちは間違えることを嫌ったり恥ずかしがったりして、話すことを控えていました。授業でも間違えるのはよくないと思い、発言が消極的になる場面もいくつかありました。しかし、そんなことを思って気にしているのは自分だけで周りの人は自分の間違いを一切気にしていませんでした。同じ授業を受けている欧米やインドネシアの人たちは間違いを恐れずに積極的に発言をし、失敗して学んでいたのが成長がとても速かったです。それどころか、台湾人の友達は、間違えても丁寧に正してお教えてくれました。そのことに気が付いてからは積極的にコミュニケーションを取るようになりました。そのおかげで、初めのころよりも成長するスピードは上がったと思います。また、失敗してもいいという考えが生まれることで、積極性が増したかなと思います。

ほかの国の友達と話しをしたり台湾を旅行したりしていくと自分の中に、自分は日本について知らなくてほかの人に説明できない。という思いが出てきました。Cross Cultural Communication という授業で他国の文化を学びながら意見交換をする授業で、ほかの国の人たちはすらすらと説明してくれている中で、私は日本について聞かれたときに深く説明できなくて、悔しくて悲しい気持ちになりました。そのため、日本の一つ一つのことを意識して深く考えることが大切だと気付きました。

今の時代は、インターネット技術が発達してきて、日本にいても語学を習得することが簡単になってきました。しかし、自分自身がその国に行くことで、その国の言葉を話す聞く時間を必然的に増やせすことができます。また、現地の友達ができて生きた表現を身に着けることもできます。留学は、上でも書いた通り、自分を成長できます。自分について考える時間が増え、また、他の国の人たちと接することで文化の違いを直接感じることができ、視野が広くなり考え方が変わっていきます。今回の留学で、私は、多くのことを経験することができ、多くのいい人たちと会えて友達になることができ非常に満足しています。留学でできた思い出は私の一生の宝物になりました。このように留学が成功したのは、国際教育センターの方々と家族のサポート、また留学で出会ったすべての人に感謝しています。

